

～技術力を活かすコミュカ、発信力でSPHの成果を地域へ還元～ U-16山梨プログラミングコンテストへの協力

小中学生を対象にしたプログラミングコンテストにおいて、専攻科生がその技術力を活かして協力を行いました。

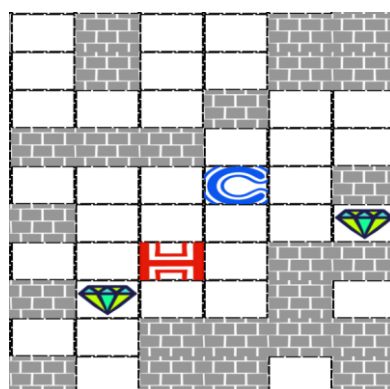
コンテストの競技部門の事前講習会では、プログラミング言語Pythonを使用したプログラミングについて、専攻科生が指導を行いました。自宅からリモートで参加した中学生にも、手厚いサポートを行いました。

競技部門では「Chaser旭川版」と呼ばれる競技が採用されています。対戦用サーバ上のステージに存在する「C」または「H」のキャラクタを、自分の組んだプログラムによって上下左右に動かすなどして、宝石を相手より多く集めることを競います。プログラムが一旦スタートすると、選手は操作を加える事が出来ないため、どのような状況の時、どのような動きをさせたいかを、よく考えてプログラミングする必要があります。

普段よりプログラミングを学ぶ学生らが、小中学生にわかりやすい言葉づかいで、丁寧に指導を行っていたのが印象的です。

自らが授業等で学ぶだけではなく、教えるという経験を通して、それまでの学びが更に深まることを経験しました。また、地域の小中学生のプログラミングスキルの向上に係わる事で、より一層「地方創生を創造する技術者」になるための志を強くしていました。

また、コンテスト本番では、会場を複数にわけて、TV会議システムで中継を行いましたが、中継スタッフとしても活躍しました。



U-16山梨プログラミングコンテスト

主催: U-16山梨プログラミングコンテスト実行委員会

共催: 山梨県高等学校教育研究会工業教育部会

会場: 甲府工業高校専攻科

期日: 競技部門事前講習会 2021年10月3日(土)

コンテスト 2021年12月11日(土)

その他: U-16プログラミングコンテストは北海道・旭川市で始まり、全国各地で、主に工業高校等が中心となり開催されています。

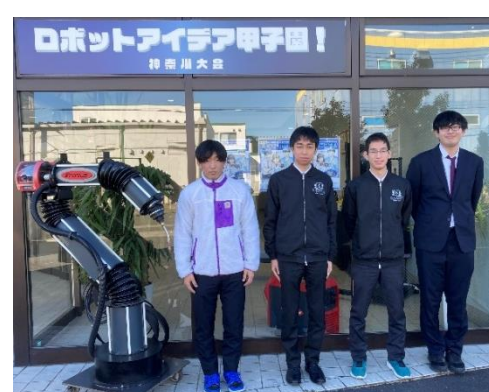
コンテスト優勝者は1月に東京で行われる「BCN ITジュニアU16賞」の表彰対象となります。

ロボットアイデア甲子園への挑戦

～「君ならロボットどう使う？」柔軟な発想で挑む社会課題～

産業用ロボットについて見学し、新たな社会実装のアイデアを競うコンテスト「ロボットアイデア甲子園」の神奈川・南関東大会(地方大会)に参加しました。12月18日(土)愛知産業(株)相模原事業所で見学会が行われました。見学会では、産業用ロボットのセミナーや工場見学を行った後、自分なりの新たな使用方法に関するアイデア出しを行い、書類提出をして終了しました。今後審査が行われ、2月に行われる発表会の発表者が選ばれる予定です。発表会で優勝すると、3月に行われる全国大会への出場が認められ、東京ビッグサイトで開催される世界最大級のロボット見本市「国際ロボット展」の中で、全国の地方大会を勝ち上がってきた選手たちとプレゼンで競い合います。

参加した学生達は、見学会で自らのアイデアを提出した後も、さらに自分の出したアイデアをブラッシュアップしたり、社会が抱える課題についてニュースなどを通して目を光らせ、ロボットや数値制御技術、ソフトウェアなど、専門分野の技術を使って解決する方法を考え続けています。今回のアイデア出しの経験をひとつのきっかけとして、今後も社会課題の解決を、技術力で挑む姿勢を持ち続け、地方創生をする技術者として、山梨の製造業を担って行ってほしいです。



ロボットアイデア甲子園(地方大会)

北海道、宮城、福島、茨城、栃木、東京、神奈川、静岡(東部・中部・西部) 愛知、岐阜、大阪、兵庫、広島、香川、福岡、佐賀、熊本の各会場で7月～2月の期間で順次開催

ロボットアイデア甲子園(地方大会/神奈川・南関東大会)

開催企業: 愛知産業(株)相模原事業所

期日: 2021年12月18日(土)・見学会

2021年 2月 5日(土)・発表会

ロボットアイデア甲子園(全国大会)

主催: (一社)日本ロボット工業会FA・ロボットシステムインテグレータ協会

会場: 東京ビッグサイト(国際ロボット展 内)

期日: 2022年3月12日(土)

SPH川柳

動くロボ 眺めて煮え立つ 独創性